

- 昭 33—9669 金属, 殊に鋼の鑄込兼同時ガス抜装置  
(略) (ウエルネル・クーベット外2) 三菱製鋼外2
- 昭 33—9700 金属, 特に鉄および鋼の排気の為の容器の入口および通路の横断面のパッキング  
(フリッツ・ハルデルス)  
(略) ドルトムント・ヘルデル・ヒュッテンユニオン・アクチエンゲゼルシャフト (独)

特許出願公告 (昭和 33—11—12)

- 昭 33—9754 新規鑄鉄の製法 (ルシアン・ペラ) レジー・ナショナル・デ・ユジュー・ルノー (仏)  
グラファイトを拡散した状態でふくむ白色鑄鉄をマルテンサイト化によつて硬度の増加を行い, つぎにグラファイトの核を生成させるための焼戻し操作を実施し, ついで高温でグラファイト化を行う方法.

### 日本鉄鋼協会記事

— 1437 頁よりつづく —

生産する裏日本唯一のアルミ器物関係著名社会である。本社にて木津社長より会社概要の説明を伺い, 同社長他幹部の方の御案内で新装成つた第一工場から第二, 第三の各工場を順次見学, 熔解炉, 連続鑄造機, 新鋭四段圧延機, 当社の特許であるアルミ屋根瓦の製造工程など, 更に弁当箱, 鍋, 湯沸およびアルマイト加工, 鑄物釜の製造など盛んな生産状況を見学して, 一同高岡を離れ約1時間の後, 林道鉱泉に到着, ここの酒池館で中食, 地元民謡の麦屋節, 古代神の歌と踊りを観賞して懇親会を兼ねる。小休の後, 金田スキー製作所を見学, ここはスキー専門メーカーとして全国唯一のもので, 高級スキーを海外まで輸出しており, 30年の歴史と2万5千台の生産能力を誇っている。

材料の乾燥から組合せ, 塗装まで説明を聞きながら熱心に見学。更に車を桜ヶ池観光地に進め高台の風景を楽しんだ後, 当地方の代表的玩具工場で各地に販路を有する太平木工の生産状況を見学。次いで木製運動具のメーカー波多製作所を訪ねる。この野球用バットの生産は全国の7割を占め, 季節的にスキーの製造も年間15万台に達している。この見学の後, 近くの広場で支部長に記念写真を撮つて頂き, 時間の関係で一路高岡へ戻り午後5時50分帰着。かくて高岡及びその山の手“トナミ”地方一帯を秋の日和に恵まれて終日有益な見学を無事に終了して解散した。

(養田実記)

**中国四国支部講演会** 中国四国支部では日本金属学会中国四国支部との共催で11月17日午前11時から徳山市市民館第1会議室で講演会を開催した。演題と講師次の通り,

1. 最近の金属物理学について 広島大学教授 藤原武夫氏
2. オートメーションと鉄鋼業 神戸製鋼所 岡 勇氏

講演終了の後, 1. 新しい建築(軽量型鋼の家), 2. 新しい厚板工場(何れも八幡製鉄株式会社提供)の映画を観覧に供した。

## 日本鉄鋼協会記事

**第8回理事会** 日時：11月11日。場所：協会々議室。出席者：塩沢会長ほか10名。

報告事項：Ⅰ. 秋季大会の件。Ⅱ. 編集委員会の件。Ⅲ. Wever教授東京講演会の件。Ⅳ. 毎日学術奨励金受賞者決定の件。Ⅴ. 大河内記念会賞受賞候補者推薦の件。Ⅵ. 世界冶金情報交換機関中止の件。Ⅶ. “鉄の記念日”に関する件。

協議事項：Ⅰ. 標準試料委員会委員長委嘱の件—武田理事に委員長委嘱のことに決定。Ⅱ. 特別資金に関する件—特別資金運営委員会の報告に基き特別資金による事業項目および金額の概要を決定。Ⅲ. 関西支部補助金交付の件—本年度分として8万1千円交付のことに決定。Ⅳ. 「インドの鉄鋼産業に関するシンポジウム」に関する件—会誌にて会告の件。Ⅴ. 日本機械学会賞受賞候補者推薦の件—編集委員会に一任の件。Ⅵ. 科学研究費審議会委員推薦の件—橋口理事、長谷川常務委員を推薦のことに決定。Ⅶ. 10月中収支決算の件—承認。Ⅷ. 10月中入退会その他会員異動の件—承認。

**第9回理事会** 日時：12月2日。場所：協会々議室。出席者：塩沢会長ほか19名。

報告事項：Ⅰ. 編集委員会の件。Ⅱ. 企画委員会の件。Ⅲ. “鉄の記念日”に関する件。

協議事項：Ⅰ. 表彰規程一部変更に関する件—変更案を可決、評議員会に提案の件とす。Ⅱ. 第3回評議員会開催に関する件—12月12日開催（書面代行）のことに決定。Ⅲ. 俵博士記念事業に関する件—記念事業実行の方針を決定、差当り論文集を刊行の件とし、その他の事業については特別委員会を設けて協議決定の件。Ⅳ. 講演大会出席費に関する件—金属学会とも連絡の件—次回決定の件。Ⅴ. 強度と疲労シンポジウム共催に関する件—共催方承認。Ⅵ. 事務局職員辞任並びに補充採用の件—承認。Ⅶ. 11月中（25日まで）収支決算の件—承認。Ⅷ. 11月中（25日まで）入退会員の他会員異動の件—承認。

**第4回企画委員会** 日時：11月25日。場所：協会々議室。出席者：伊藤委員長ほか8名。

報告事項：Ⅰ. 鉄鋼便覧改編実施に関する件。Ⅱ. 特別資金による事業計画に関する件。

協議事項：Ⅰ. 俵博士記念事業に関する件—記念事業実行の方針を決定、実施すべき事業として（1）著作集の編集刊行、（2）胸像の作製、（3）鉄鋼図書館の設置、（4）鉄鋼会館の建設を選定、理事会に報告の件とす。Ⅱ. 協会徽章に関する件—特に改める必要を認めないので、バッジは従来そのままにて再製の件。名誉会員章などについては他の学協会の実例などを調査研究の上更に協議の件。

**第9回編集委員会** 日時：11月28日 18:00～29日。会場：熱海市八幡製鉄熱海寮。出席者：長谷川常務委員外12名。

報告事項：11月号および12月号並に Tetsu to-Hagané Abstracts No.6, No.7 刊行の件。

協議事項：Ⅰ. 34年2月号原稿選定の件—選定済み。Ⅱ. 来春4月講演大会における見学工場選定の件—選定済み依頼状発送の件。Ⅲ. Tetsu-to-Hagané Abstracts No.7 掲載追加事項および口絵選定の件—双方とも選定済み。Ⅳ. 技術資料追加の件—別紙（省略）案により執筆依頼の件。

**特別講演会** 日本金属学会、非破壊検査協会と本会共催の下に11月13日午後2時から中央区八重洲町日本相互ホールにおいて開催。講師として目下来朝中の本会名誉会員 Franz Wever 教授（西独マックス・プランク鉄鋼研究所長）を聘し、「鋼の熱処理の基礎的問題について」と題する講演を聴講した。（講演概要は“鉄と鋼”34年2月号に掲載の予定）参加者300名を超える頗る盛会であった。

**北陸支部講演大会** 北陸支部では日本金属学会北陸信越支部と共催で秋季講演大会を開催した。その概況は次の通りである。

（講演会）11月9日富山大学工学部階段教室に約百名の会員が出席して開かれた。菊池支部長の開会の挨拶に続いて午前8題、午後9題、遠く山梨や新潟、金沢からも参集され合計17題の研究発表がプログラム通り盛況裡に進行した。曇天で一時小雨も降ったが、幻燈の講演も多く却つて教室内が落ち着いた雰囲気となり誠に有意義であった。支部長も述べておられた通り、全国大会では各分科に別れてしまうが、このように各方面の講演を一つの室内で聴くことも大変示唆多く有益であつて、この点支部大会の真面目とするところと思われる。当支部としては昨年6月以来久しぶりのことであるが、今回は特別講演を行わずに一般研究発表だけに止め、又時節柄会社工場からの資金援助も仰がず極めてしつくりと纏りの良い大会を持つことが出来た。菊池支部長就任以来最初の支部大会であり、かくて充実した有意義な第一日が無事終了した。

（見学会）高岡駅横商工奨励館前に10日午前9時集合。一行50名珍しい日本晴の快晴に恵まれて観光バスにて出発。先ず市内新興工業を見学。ここは輸出向捺染の代表会社で東南アジア、中近東など広く販路をもっている。機械捺染工場、自動スクリーン捺染工場、手捺工場など各工場の作業状況と見事な製品を見学、なお当社武田会長の蒐集された美術骨董品の陳列館を拝見して辞去。次いで北陸軽金属工業に向う。ここは資本金2億5千万円、従業員1,000名を擁し月産アルミニウム家庭厨房器物500t、建築用材200t、アルマイト加工20万平方メートル、鋳物30t、を